

ヴィーブル&コミュニティ情報

申し込み・問い合わせ先 **ヴィーブル ☎248-5555**

トレーニングルームは点検のため、2月1日(火)は休みとなります。

1月の市民講座 いきいき健康講座②

日本人のがんのなかでも男女合わせた罹患数が第1位である大腸がんの早期発見のための健康講座です。検診から治療まで幅広く知っていただくための良い機会となっています。この機会に大腸がんについて学んでみませんか。皆さんお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

- ▶ **とき** 1月27日(木) 午前10時15分～
受け付けは午前9時45分～
 - ▶ **ところ** ヴィーブル文化会館
 - ▶ **参加費** 無料
 - ▶ **申込方法** 生涯学習課窓口でお申し込みください。
※事前に申し込みができなかった人も当日会場で申し込みができます
 - ▶ **内容**
 - (1) オープニング さしより生バンド
 - (2) いきいき健康講座②
- 演題 『大腸がん早期発見のために
～検診から治療まで～』
- 講師 大腸肛門病センター高野病院
理事長・名誉院長 山田 一隆 さん
※当日はマスクを着用し、筆記用具をお持ちください

合生コミュニティ地域づくり運営委員会主催 “防災さんぽ”開催

11月7日、西合志第一小学校で児童に楽しみながら防災意識を高めてもらおうと“防災さんぽ”を開催し、協力者を含め約50人が参加しました。子どもたちは、地図を片手に保護者と一緒に通学路を点検して歩き、危険な場所や安全な場所などに色分けシールを貼り、写真を撮影しました。その後、ダンボールベッドの作り方・救急救命法・AED・消火器の使い方・緊急時の公衆電話のかけ方などを学び、災害時に適切な行動ができるよう、訓練を行いました。長野博巳委員長は「初めての試みでしたが、日常の通学路にも危険な箇所があるという事が分かり、災害から身を守るという防災意識の啓発も出来たと思います」と語りました。



防災さんぽの様子



訓練の様子

合志市クリエイター塾卒業生にインタビュー

今年度市クリエイター塾を卒業した、尾辻貴大さん(黒石)と藪田賢太郎さん(上庄)に、3カ月間の授業について聞きました。

ふたりは、「年齢も価値観も異なる者同士のオンライン上での意見交換は、始めは戸惑いや不安がありましたが、全国の仲間と繋がることができ、刺激を受けて大変有意義な時間でした」と感想を語りました。

尾辻さんは、「企画・演出・撮影・編集の一連の映像制作の流れを経験したことで、“伝えること”の難しさを痛感しました。当初考えていた“高価な機材と映像の知識さえあれば、1人でも良い映像は撮れる”という思いが払拭され、個々の役割の重要性を実感しました」と話し、中でも講師陣の『プロの撮影特別授業』は、光の作り方や撮影時の声かけを目の当たりにし、貴重な経験になったそうです。

藪田さんは、「伝えたい人や映像の目的に応じて、音・文字・光などさまざまな表現方法があり、正解のない世界で試行錯誤したのが大変でした。今回“伝え

ること”について学んだことで、世の中のニーズを意識したり、得た知識をどのように地域に還元していくかを考える時間が増えました。趣味や職場の広報活動にも意欲的になり、プライベートの充実にも繋がります」と話しました。

今回参加した108人の皆さんの市民クリエイターとしての活躍を、今後も講師陣と事務局で支援していきます。



左から、尾辻さん、藪田さん

地域おこし協力隊通信

缶バッジを作ろうワークショップレポート

参加者とのコミュニケーションを通じた気づきと発見

地域おこし協力隊 安在 渉

●問い合わせ先 合志マンガミュージアム ☎273-6766



11月3日、合志マンガ祭りのものづくりイベントとして、マンガワークショップ「缶バッジを作ろう」を企画・実施しました。

そのワークショップの中で、ある参加者の男の子との交流が印象に残っています。彼は「先生、完成するまで見ちゃダメだよ」と言っていて、缶バッジ用のイラストを描いていた。どんなイラストになるのだろうと、楽しみにしながら待っていると、完成した、私の似顔絵が描かれた缶バッジを「先生にあげる」と言ってお渡ししてくれたのです。このようなことは初めてだったため、大変感動し、今でも名札と一緒に身につけています。

ワークショップ開催後、なぜ私その出来事によって心を動かされたのかを考え、気づきを得ることができました。それは、相手の立場に立って考え、相手を思って行動することの重要性です。彼が行なったのは、プレゼントする。誰か“のことを想定し、制作するという”こと。それは、クリエイターにとって大事な姿勢です。

缶バッジ企画を通して、技術習得だけでなく、クリエイターとしての心がけを学ぶことができることもマンガワークショップの見せる一つの側面なのだと思えました。このような気づきを、次回の企画のヒントにしていきたいと考えています。